建設業界で働きたい女性や若者増やしたい

Myウェイ Myライフ

ニーズつかみ新事業

京都サンダー社長　新井　恭子さん

建設関連の業務ソフトの販売や導入の支援、人材育成などを手掛ける会社を率いる。京都市上京区にあるオフィスは社員8人の小所帯ながら、IT化が進む建設業界で独自の地位を占めている。「取引先の業務改善や社員の能力向上に貢献するのが当社の役割」と言葉に力を込める。

公共工事で重要なプロセスの一つが積算だ。設計書を基に工事のコストを計算する業務で、受注の成否や利益率を左右する。「積算ソフトが簡単になった今でも、使いこなすにはやはり知識が必要」。取引先の要望を聞いて最適なソフトを提案するほか、社員が問い合わせに対応して操作を手ほどきしている。

自らも取引先の経営者や現場監督に会ってニーズをつかみ、新たな商品やサービスを提案してきた。その中で生まれたのが建設業界を対象にした研修事業だ。新会社も立ち上げた。たとえば、現場担当者が担ってきた積算や書類作成などの仕事を事務員がこなせるよう、知識やノウハウを教える建設ディレクター育成講座を開いている。「受講した若手社員が技能を身に付けて会社を引っ張っている例もある」と手応えを語る。

21年前、父が創業した会社に事務員として入社。当時は事務機器の販売がメインだったが、建設業の取引先の依頼をきっかけに積算ソフトも取り扱っていた。自らも積算に興味を持ち、猛勉強の末に知識を習得。「目の前の道路や建物ができる過程が分かり、もっと知りたいと思った」

営業で建設会社を回り、次々に顧客を開拓。パソコンの普及や入札業務の電子化といった流れに乗り、事業の柱は事務機器から現在のビジネスへ。社員に認められ、5年前に父の跡を継いで社長に就いた。

いまだに「きつい」「汚い」「危険」というイメージが強い建設業界だが、情報通信機器や自動化技術の導入で「スマート化」が進みつつある。「正しい情報を発信し、建設業界で働きたいという女性や若者を増やしたい」と意気込む。

（高野英明）

あらい・きょうこ　華頂短期大卒。1996年に京都サンダーに入社し、2012年から社長。建設業界向けの研修事業を手掛けるナレッジボックス（京都市上京区）の社長も兼務。左京区で夫と二人暮らし。京都市出身。45歳。